

外国につながるのがある 高校生たちの『活躍する力』を拓く

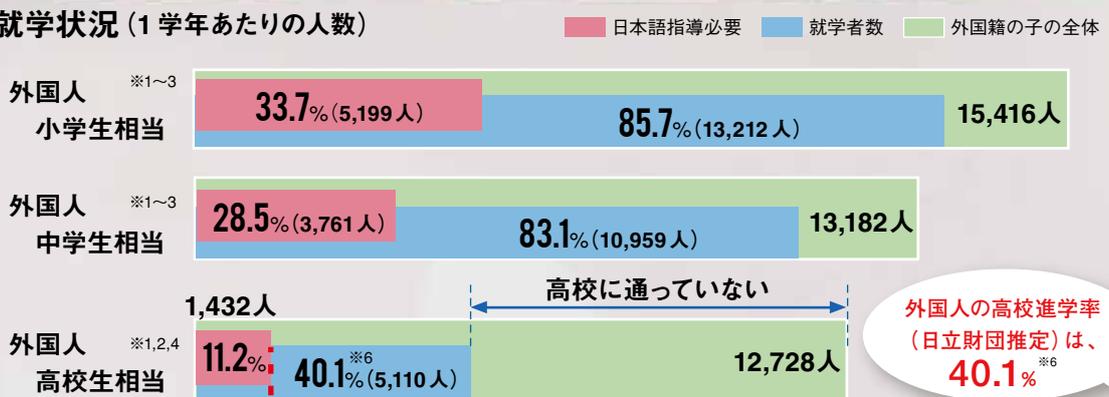
～教育の実態が問いかける支援のあり方～



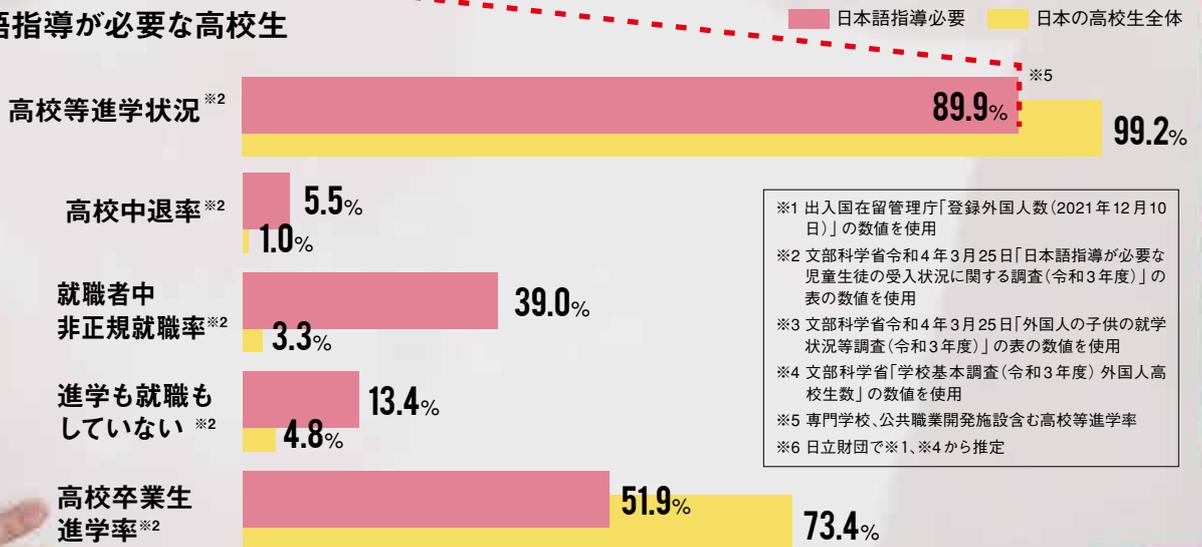
2022年 **12/10** (土) 13:00～17:00 **参加無料** (視聴定員 1000名まで)
 ◎お申し込みは裏面をご覧ください。

※「外国につながるのがある」とは、日本に居住する「外国籍」および「日本国籍で外国にもルーツを有する」ことを意味する。

●外国人の就学状況 (1学年あたりの人数)



●日本語指導が必要な高校生



※1 出入国在留管理庁「登録外国人数(2021年12月10日)」の数値を使用
 ※2 文部科学省令和4年3月25日「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況に関する調査(令和3年度)」の表の数値を使用
 ※3 文部科学省令和4年3月25日「外国人の子供の就学状況等調査(令和3年度)」の表の数値を使用
 ※4 文部科学省「学校基本調査(令和3年度) 外国人高校生数」の数値を使用
 ※5 専門学校、公共職業開発施設含む高校等進学率
 ※6 日立財団で※1、※4から推定

少子化が進行する中、外国人登録者数は10年間で38%増加、約300万人に達し、外国人と家族の定住化が進んでいます。本フォーラムでは、外国につながるのがある高校生の課題について、議論したいと思います。

- 日本語指導が必要な「外国につながるのがある児童生徒」は5.8万人、10年間で1.8倍に増加。社会で活躍する力をつけたい高校生世代約4万人の課題は、深刻、急務。うち、15%(6000人)は、奨学金、就学と就労などより多くの制約を持つ家族滞在資格者。
- 「日本語指導が必要な生徒の高校等進学率」89.9%は初調査で貴重だが、専門学校・公共職業開発施設を含む数値であるほか、この調査の対象外の若者の人数は多く「外国籍高校生全体の進学率(日立財団推定)」は40.1%と極めて低い。「日本語指導が必要な生徒」への支援の強化に加え、「日本語指導が必要とされていない」とされる方々の実態把握と支援は急務である。
- 学んでいる若者の活躍の場は限られ、多くが教育を受ける権利から取り残され、日本の社会が十分に若者の力を伸ばし活用できていない。

外国につながるの高校生たちの『活躍する力』を拓く ～教育の実態が問いかける支援のあり方～

2022年

12/10(土)

zoom配信 13:00～17:00

参加無料

高等学校等における日本語指導の制度化など「外国人児童生徒等教育に関する施策の充実」を文部科学省から、対象者数最多の東京都での状況として「都立高校を対象とした調査結果」を東京大学から、ご講演いただきます。また、神奈川県外国ルーツ若者グループの皆さんからは、高校・大学での経験を後輩たちに伝える活動や自らの経験について、お話いただきます。外国につながるの高校生の教育の充実について理解を深め、より良い社会を創る契機としたいと思います。

外国人児童生徒等教育に関する 施策の充実

～高等学校等における日本語指導の制度化について～

事前質問への回答を予定



石田 善顕氏

(いしだ よしあき)

文部科学省 総合教育政策局
国際教育課 課長

「外国につながる生徒の教育機会保障と 包括的支援に向けた東京都の課題と可能性」

～ 都立高校 79 校の質問紙調査と 30 校のインタビューから ～

当日および事前質問への回答を予定



額賀 美紗子氏

(ぬかが みさこ)

東京大学大学院
教育学研究科 教授

神奈川県外国ルーツの学生が後輩のために作った 「多文化ユースプロジェクト」の活動報告

多文化ユースプロジェクト
[https://multiyouth.com/
multiculturalayouth](https://multiyouth.com/multiculturalayouth)



tabunkayouth



王 希璇氏

(わん しーしえん)

多文化ユースプロジェクト代表

13歳中学1年生で中国から来日。国際教室のある公立中学校、横浜商業高校国際科(在県校)、宇都宮大学卒、横浜市立大学大学院卒。国際・教育関連を学んできた。将来、外国につながる子供のキャリア形成をサポートするため、現在は人材業界で働いている。



星玖藤原愛紗氏

(シェイク フジハラ アイシャ)

ペルーとバキスタンに繋がりをもち日本で生まれ育った。座間総合高校、桜美林大学リベラルアーツ学群卒。国際関係・国際協力専攻。将来の夢は二つ。在日外国人をサポートすること、途上国で学校へ行けない子どもたちを減らすこと。高校時代から在日外国人のボランティア活動に参加。



佐々木 聖照氏

(ささき せいしょう)

2011年3月に中国から15歳で来日。学齢超過のためフリースクールに通った。鶴見総合高校(在県校)、神奈川県立大学外国語学部卒。県主催「あーすフェスタかながわ」委員長など各種委員を歴任。外務省や文化庁主催の会合に登壇。2020年4月から横浜市中区役所勤務。



ナイム サード
ビン氏

13歳でバキスタンから来日。中学2年から国際教室のある公立中学校、有馬高校(在県校)、帝京大学経済学部卒。高校・大学時代に外国人を支援する数多くのボランティア活動に参加。日本企業に勤務後、家族の会社を継ぎ全国での営業に飛び回っている。



山崎ラジャン
バレンシア氏

多文化ユースプロジェクト副代表

中学2年14歳でフィリピンから来日。公立中学校、有馬高校(在県校)、神奈川県立大学理学部情報科学卒。WEBエンジニアとして活躍中。学生時代に独自開発した多言語ふりがな情報発信システムを本団体で、在県校在留日数計算ツールをME-netのガイドランス特設ページで活用。ME-net理事。



モデレーター

高橋 清樹氏

(たかはし せいじゅ)

認定NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわME-net事務局長
元県立高校数学教員。外国つながりの子の高校進学説明会を自治体と連携して推進。文部科学省外国人児童生徒等教育アドバイザーとして活躍。

在県校:神奈川県高等学校「在県外国人等特別募集」制度。 2022年度 18校187名(5校42名増枠)、来日6年以内(2021年度までは3年以内) 2023年度から2校追加計20校

●お申し込み方法:下記のサイトにアクセスの上お申し込みください。

<https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics092.html>

※本講演会はオンライン開催とし、Zoomを使用します。参加にはパソコン、タブレット、スマートフォンなどの端末と、ネット環境が必要です。
※お申し込みいただいた方には、講演の開催前日までに、Zoomへの接続情報をご登録のアドレスに電子メールにてお送りします。

